

# 平和を求めてきた堺の人びと

## くにじゅう 國中戦争あるも

### 此地に於て戦うを得ず

#### ——ビレラ

戦国時代、フランシスコ・サビエルをはじめ、日本にやって来たヨーロッパの宣教師たちは、数多い報告書をローマのイエズス会本部へ送っている。とくにホルトカル人宣教師ガスバル・ビレラは、1561年に堺にきて以来、京との間を往復し、実に堺に6年間滞在した。当時の堺の町を象徴的に書いた下の報告は、諸書に引用され、有名である。



フランシスコ・サビエル像 共同通信社 提供

ヨーロッパの宣教師が見た  
平和な中世の堺

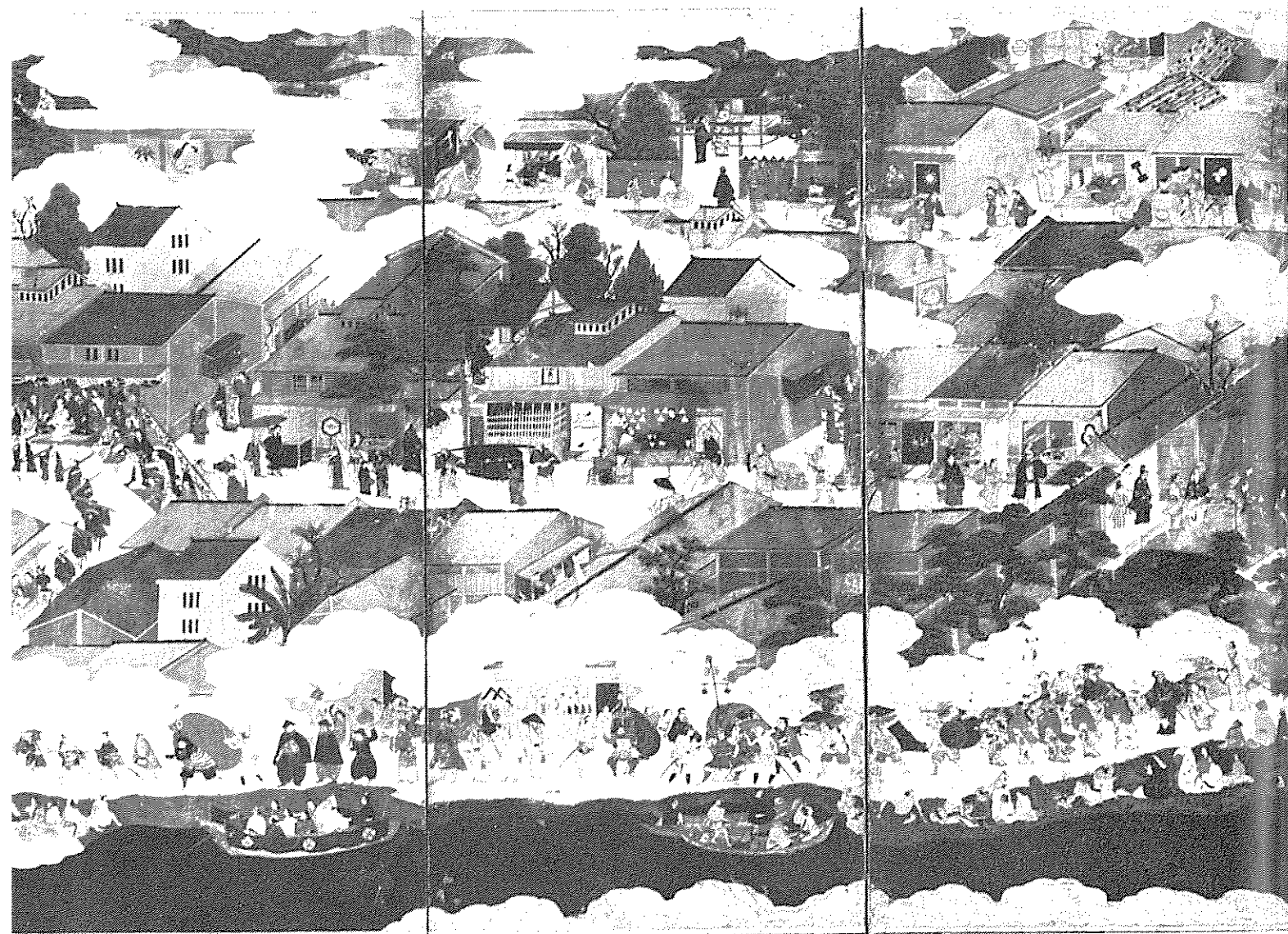
ビレラの手紙から

此町はベニス市の如く執政官によりて治めらる。……此町は前に述べたる如く甚だ大きく且富み、住人はよく事理を解せり。……此町は住民多数にして富み、且好地位を占有せるため常に平和にして侵すべからず。我等此地に留るに至らば、戦争の時は此地に退き、其止むに至りて此処より出づることを得べければなり(一五六一)

日本全国当堺の町より安全なる所なく、他の諸国に於て動乱あるも、此町には管て無く、敗者も勝者も、此町に來往すれば皆平和に生活し、諸人相和し、他人に害を加ふるものなし。市街に於ては皆て紛擾起ることなく、敵味方の差別なく皆大なる愛情と礼儀を以て応対せり。市街には悉く門(木戸)ありて番人を附し、紛擾あれば直に之を閉づることも一の理由なるべし。紛擾起す時は犯人其他悉く捕へて処罰す。然れども互に敵視するもの町壁外に出づれば、彼等一投石の距離を越えざるも遭遇する時は互に殺傷せんとす。町は甚だ堅固にして、西方は海を以て、又他の側は深き堀を以て囲まれ、常に水充滿せり(一五六二)

当堺の地は堅固し又堅固にして、日本國中戦争あるも、此地に來れば相敵する者も友人の如く談話往來し、此地に於て戦ふを得ず。此故に堺は破壊せらるることなく富裕なり。此町を出づれば各其敵に勝たんことを努む。若し町に於て争闘ある時は争ひたる者は土地の人に殺さる。蓋し此地の規定なればなり(一五六四)

若し堺に於て家を得ば子は大に喜ぶべし。何となれば暴君(松永久秀)同地(堺)より子等を追放せんとするも決して之を行ふ能はざるが故なり。彼は堺に多数の敵を有し之を殺さんと欲すと雖も堺は堅固なるを以て同地(堺)に於て争闘あることを許せば全町之に同意するの習慣なるを以て我等同地に在る時は城中に在るが如くなるべし(一五六五)



『住吉祭礼図屏風』部分(堺市博物館蔵) 中世、戦国争乱の時代にあつて、まちの平和を守り抜こうとした中世から近世初頭にかけての堺の町衆の姿や町並をかい間みることができる。この屏風は、住吉大社の田原6月晦日(みそか)の大祭で御輿(みこし)が堺の宿院へ渡る様子を描いたもの。この行列には南蛮装束の人物がいたり、道筋では野点(のだて)の茶を楽しむ人々もみえ、いかにも平和な堺のまちの雰囲気が出ている。